

## 京都の喫茶店

中田 晶

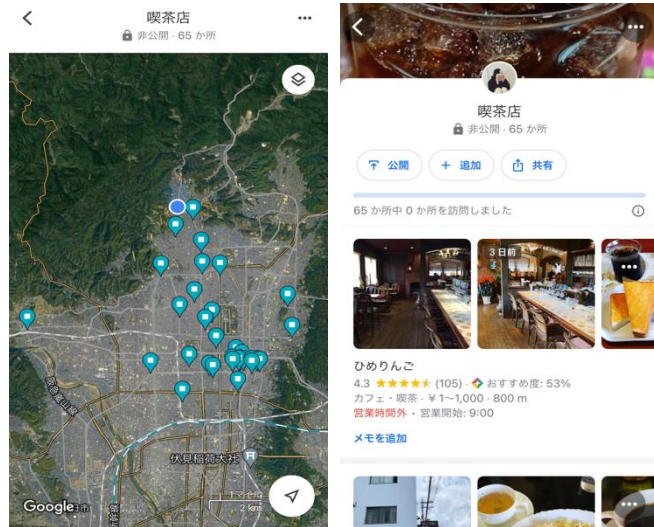
(2021 年入学 鈴木ゼミ 5 期生)

### 京都市は最もコーヒー好きな街

私は喫茶店が大好きだ。雰囲気の良い喫茶店でコーヒーを飲む時間は何者にも変え難い。喫茶店好きが高じて、Google Maps でオリジナルの喫茶マップを作成している。

喫茶店の魅力の一つとして、一人で気軽に訪れやすいということが挙げられる。喫茶店に行けば分かるが、圧倒的に他の飲食店よりも一人客が多いのだ。皆それぞれ新聞を読んだり音楽を聞いたりし、自分の時間を過ごしている。そのため、周りの目を気にすることなく好きなことをして過ごす事が出来る。私も高校生の頃からよく課題をするのに喫茶店を訪れていた。このように数年前から喫茶店が好きなのだが、京都で暮らすようになり通う頻度が大幅に増えた。

その理由として、身近に喫茶店が多くあることが挙げられる。なんと京都の喫茶店店舗数は全国 8 位であり、2000 軒以上もの喫茶店があるのだ。なぜこんなにも喫茶店が多いのか疑問に思い調べてみると、京都市はコーヒー消費量・支出額共に全国 1 位であるというデータを見つけた。このことから、「京都市は最もコーヒー好きな街」として知られていることがわかった。



実際に作成している喫茶マップ

### 京都の喫茶文化

そんな京都の喫茶文化は室町時代から続いている。初めに喫茶の文化を日本へもたらしたのは、鎌倉時代の僧・栄西である。中国から茶種を持ち帰った栄西は『喫茶養生記』を著し、薬のような効用を得る喫茶文化を広めた。喫茶が上流階級から庶民に広がり始めたのは室町時代。門前で商人が茶を淹れて参拝者に売る、このような「一服一銭」と呼ばれていた茶屋が喫茶の源流である。そして、この「一服一銭」は東寺門前にもあったことが分かっている。ここで販売されていたのは質の低い茶葉を煮出した煎じ茶であったが、栄西の伝えた薬効のある飲み物という考え方の影響か、薬草も加えられていたようだ。江戸

時代に入ると、参詣の休憩所として社寺の門前や街道沿いに「掛茶屋（水茶屋）」が登場した。八坂神社の南門前にも2軒の茶屋があり、「二軒茶屋」として知られていた。同じ場所に今も残る料亭「中村楼」と茶店「二軒茶屋」はそのうちの1軒がルーツである。そして、この二軒茶屋ではお茶だけでなく祇園豆腐と呼ばれる食事も提供されていた。現在、喫茶店でケーキやサンドイッチなどが提供されているのもこの名残でないだろうか。その後、明治30年頃に洋風の飲み物を提供する「ミルクホール」が市街地に登場し、やがて「カフェー」へと発展した。「カフェー」とは女給が酒類を提供するサロンのような場所で、現在の喫茶店やカフェとは雰囲気異なるものであった。そして、昭和初期に現在のような喫茶店が街に登場した。このようにアルコールを提供せず純粋にコーヒーを楽しむためのお店と「カフェー」を区別するため、「純喫茶」という言葉が使われるようになった。京都で最も古い喫茶店として知られる「進々堂 京大北門前」など、現在も人々に愛されている喫茶店が営業を開始したのもこの頃である。

古くからある喫茶店

また、京都には戦前から続く喫茶店が多くある。これは大阪や兵庫など、他の都道府県にはない魅力である。ここからは今もなお残っている昭和初期開業の喫茶店を紹介していく。

| 開業年             | 店名                                    |
|-----------------|---------------------------------------|
| 1930 年（昭和 5 年）  | 進々堂 京大北門前<br>Sir Thomas LIPTON ティーハウス |
| 1932 年（昭和 7 年）  | スマート珈琲店                               |
| 1934 年（昭和 9 年）  | フランソア喫茶室<br>築地                        |
| 1937 年（昭和 12 年） | 静香                                    |
| 1937 年（昭和 12 年） | イノダコーヒー本店                             |



実際に築地を訪れた際の写真

私はこの中の築地という喫茶店に訪れたことがある。築地は京都で初めてウィンナーコーヒーを提供した店として知られている。物資が乏しく粗悪品が出回っていた時代に、ホイップしたクリームをコーヒーに浮かべ、本物の生クリームであることを証明したことが始まりである。築地には普通のホットコーヒーはない。ウィンナーコーヒー専用の特別なコーヒーを淹れているからだ。こうしたこだわりも魅力の一つだと私は思う。また、ウィンナーコーヒーだけでなくムースケーキも絶品だ。かなりの人気店であると共に、四条河原町という立地の良いところにあるため満席の時も多い。

お気に入りの喫茶店

さて、ここからは個人的なお気に入りの喫茶店を二つ紹介しようと思う。一つ目は西賀

茂にある『ひめりんご』。1978年（昭和53年）から営業している老舗喫茶だ。広々とした店内にはヨーロピアン調の椅子やテーブルが並んでおり、レトロな雰囲気を醸し出している。夫婦で経営していると聞いていたが、私が訪れた際は50代くらいの女性とアルバイトと思える女性の二人が接客をしていた。周りには一人客が三組ほどで、会話もなくかなり落ち着いた空間だ。メニューを見るとあんみつやぜんざい、パフェなど甘味がたくさんあった。「ひめりんごパフェ」というリンゴのシャーベットがふんだんに使われているパフェが名物のようなのだが、私はコーヒーとフルーツサンドを注文した。フルーツサンドにはキウイや桃、バナナなどたくさんの果物がふんだんに使われていた。口コミを見る限り地元の人に愛されている喫茶店のようで、友達に聞いてみても知っている人は少なかった。京都産業大学から歩いて30分ほどの場所にあるので、是非興味を持った方は訪れてみてほしい。



二つ目は、烏丸紫明交差点にある『花の木』。1966年（昭和41年）創業のこの喫茶店は、俳優・高倉健が通っていたことで有名だ。店内には70代くらいの男性客が多く、ほとんど皆常連のようで店員と仲良さげに談笑していた。また大学生グループも数組おり、若い世代にも人気であることが窺える。店内はかなりお洒落で私好みだ。内装や使用している食器は創業当時から変わっていないらしく、強いこだわりを感じる。カウンターの奥には名俳優ジャン・ギャバンの特大パネルが飾られていた。これは高倉健からの贈り物らしく、東映京都撮影所で撮影があるたびに花の木を訪れ、このパネルを眺めていたそうだ。奥には電話室もあり、かなり時代を感じる。私は銅板のテーブルに座り、コーヒーとホットドックを注文。コーヒー400円・ホットドック300円という

他の喫茶店に比べてもかなりの安価で提供されているが、それを感じさせないほどのクオリティ。すでに数回訪れているが、これからも通い続けるであろう喫茶店の一つだ。

### これからも喫茶店へ

ここまで京都の喫茶の歴史やお気に入りの店舗を紹介してきたが、改めて私は喫茶店が大好きであるということを再認識できた。これからも古き良き喫茶店を巡り、みんなに良さを伝えていけたらと思う。

参考文献

- ・ THE KYOTO コーヒー大好き京都源流にチェーン店？意外な喫茶秘史  
<https://www.kyoto-np.co.jp/articles/thekyoto/675994>
- ・ 京阪電車 京都ツウのススメ 第155回 京都の喫茶店  
[https://www.okeihan.net/navi/kyoto\\_tsu/tsu202106.php](https://www.okeihan.net/navi/kyoto_tsu/tsu202106.php)
- ・ KYOTO T5 京都のスープ #11 喫茶築地  
<https://kyotot5.jp/interview/soup-11/>
- ・ Kyotopi 【京都カフェ巡り】賀茂川沿いの一軒家喫茶店！レトロ空間に懐かしむ人続出  
<https://kyotopi.jp/articles/MKUJD>
- ・ 喫茶のすたるじあ 【京都・花の木】高倉健が撮影終わりに足繁く通った喫茶店  
<https://www.kissa-nostalgia.net/kissa-kyoto-hananoki>